



平成29年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年4月24日

上場会社名 株式会社篠崎屋

上場取引所 東

コード番号 2926 URL <http://www.shinozakiya.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 樽見 茂

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理グループ長兼経営企画部長兼IR室長 (氏名) 矢立 実

TEL 048-970-4949

四半期報告書提出予定日 平成29年5月2日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年9月期第2四半期の業績(平成28年10月1日～平成29年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年9月期第2四半期	2,177	5.1	71	615.8	72	593.8	54	—
28年9月期第2四半期	2,071	△10.5	9	△86.9	10	△86.1	△5	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年9月期第2四半期	3.86	—
28年9月期第2四半期	△0.36	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
29年9月期第2四半期	1,683	1,229	1,229	1,189	73.0	86.86
28年9月期	1,563	1,189	1,189	—	76.0	83.99

(参考)自己資本 29年9月期第2四半期 1,229百万円 28年9月期 1,189百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年9月期	—	0.00	—	1.00	1.00
29年9月期	—	0.00	—	—	—
29年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成29年9月期の配当予想額につきましては、業績予想の開示を行っていないことから、現時点において未定とさせていただきます。配当につきましては業績予想の見通しを開示した際にお知らせいたします。

3. 平成29年9月期の業績予想(平成28年10月1日～平成29年9月30日)

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をしております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年9月期2Q	14,436,600 株	28年9月期	14,436,600 株
29年9月期2Q	278,800 株	28年9月期	278,800 株
29年9月期2Q	14,157,800 株	28年9月期2Q	14,200,601 株

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績見通し等の前提となる仮定及び業績見通し等のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ、「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」を参照してください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間の売上高は2,177,332千円（前年同四半期比5.1%増）、営業利益は71,475千円（前年同四半期比615.8%増）、経常利益は72,514千円（前年同四半期比593.8%増）、四半期純利益は54,719千円（前年同四半期は四半期純損失5,175千円）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### （小売事業）

当事業年度におきましては、「三代目茂蔵」のブランド力を強化・確立することで、売上高及び利益の向上を図ってまいります。

商品につきましては、消費者にとって価値のある商品づくりを目指し、豆腐、豆乳、おから等を使用した「茂蔵オリジナル商品」、それ以外の厳選された「茂蔵定番商品」、協力工場等からの「本日のお買い得品」の3つに分類し、この中でも特に茂蔵でしか購入することのできない「茂蔵オリジナル商品」の新商品開発及び既存商品のリニューアルを強化してまいりました。

当第2四半期においては、「茂蔵オリジナル商品」として節分や節句、彼岸などのイベントに合わせた開発・販売も積極的に行い、また、既存商品につきましては、量目をボリュームアップ等することで価格の見直しを行ってまいりました。さらに、自社の製造部門にて「茂蔵オリジナル商品」を開発・強化し、商品開発のスピードを上げることで、売上高及び利益の増加を図ってまいりました。

店舗におきましては、前事業年度に実施したパッケージの統一化による「より分かり易く」することによる茂蔵ブランドの認知度向上を引き続き推し進め、販売形態の見直しとなる多段棚の有効活用を検証してまいりました。なお、3月に既存業態を1店舗出店しましたが、引き続き、店舗運営等のマニュアル作成に取り組み、売上等の結果検証を行い、出店再開の準備を進めてまいりました。

これらより、1店舗平均の顧客数は、店舗での販売形態の見直しの影響等もあり、前年同四半期比97.9%となりました。一方で、1商品あたり買上単価は前年同四半期比111.0%となったことが大きく貢献し、1店舗平均の顧客単価は同108.4%となりました。なお、一人あたりの買上点数は前事業年度を下回りましたが、前事業年度に取扱アイテム数を増加したことにより、前々事業年度との比較においては103.9%と増加しております。

売上総利益率につきましては、価格の見直しを行ったことで商品売上原価率が前年同四半期比1.4P改善したことが要因となり、30.6%と前年同四半期と比較し1.4P上昇しました。

営業利益率につきましては、売上高が増加したこと及び前事業年度において不採算店舗を閉店したことにより、販管費の売上高構成比が1.3P減少したことが要因となり前年同四半期と比較し2.6P上昇し、45,442千円の増加となりました。

以上の結果、小売事業の売上高は1,805,928千円（前年同四半期比2.7%減）、セグメント利益（営業利益）は113,190千円（前年同四半期比67.1%増）となりました。

#### （その他事業）

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は371,403千円（前年同四半期比71.8%増）、セグメント利益（営業利益）は20,639千円（前年同四半期比4.9%増）となりました。

なお、当第2四半期累計期間の出店状況は、次のとおりであります。

（単位：店）

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当第2四半期末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」（直営店）	55	1	2	54
その他事業	「三代目茂蔵」（加盟店）	133	31	5	159
合計		188	32	7	213

（2）財政状態に関する説明

① 財政状態

（資産）

当第2四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末と比較して119,902千円増加し1,683,572千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加123,296千円、売掛金の増加17,805千円及び商品の増加20,162千円等によるものであります。

（負債）

当第2四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末と比較して79,340千円増加し453,851千円となりました。主な要因は、買掛金の増加63,283千円及び未払金の増加22,756千円等によるものであります。

（純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して40,561千円増加し1,229,721千円となりました。これは四半期純利益54,719千円の計上と配当金14,157千円の支払により利益剰余金が40,561千円増加したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度と比較して123,296千円増加し452,135千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、125,345千円（前年同四半期は67,941千円の収入）となりました。これは主に、増加要因として税引前四半期純利益72,609千円、減価償却費及びその他の償却費17,919千円、仕入債務の増加額63,283千円及び未払消費税の増加額19,221千円、減少要因として売上債権の増加額17,805千円、たな卸資産の増加額19,893千円及び法人税等の支払額20,163千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は、11,954千円（前年同四半期は402千円の支出）となりました。これは主に、敷金及び保証金の回収による収入10,058千円、リース債権の回収による収入3,756千円、有形固定資産の取得による支出277千円及び敷金及び保証金の差入による支出1,535千円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、14,007千円（前年同四半期は40,637千円の支出）となりました。これは配当金の支払額14,007千円によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては同第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当第2四半期会計期間 (平成29年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	328,838	452,135
売掛金	111,808	129,613
商品	65,422	85,584
貯蔵品	1,655	1,386
その他	45,350	34,013
貸倒引当金	△40	△50
流動資産合計	553,035	702,684
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	121,855	112,838
構築物（純額）	9,705	9,007
工具、器具及び備品（純額）	26,815	22,878
土地	562,970	562,970
その他（純額）	5,754	5,246
有形固定資産合計	727,101	712,941
無形固定資産	19,666	17,176
投資その他の資産		
敷金及び保証金	184,942	176,035
その他	79,162	74,962
貸倒引当金	△239	△229
投資その他の資産合計	263,866	250,769
固定資産合計	1,010,634	980,888
資産合計	1,563,669	1,683,572
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	232,599	295,883
未払金	56,896	79,653
未払費用	42,730	43,053
未払法人税等	26,678	23,922
債務保証損失引当金	8,550	5,550
その他	5,960	4,693
流動負債合計	373,415	452,756
固定負債	1,094	1,094
負債合計	374,510	453,851
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	120,446	120,446
利益剰余金	109,383	149,945
自己株式	△40,896	△40,896
株主資本合計	1,188,934	1,229,496
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	224	224
評価・換算差額等	224	224
純資産合計	1,189,159	1,229,721
負債純資産合計	1,563,669	1,683,572

（2）四半期損益計算書  
（第2四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期累計期間 （自平成27年10月1日 至平成28年3月31日）	当第2四半期累計期間 （自平成28年10月1日 至平成29年3月31日）
売上高	2,071,543	2,177,332
売上原価	1,486,646	1,542,894
売上総利益	584,896	634,437
販売費及び一般管理費	574,911	562,961
営業利益	9,985	71,475
営業外収益		
受取利息	180	112
未払配当金除斥益	—	456
受取保険金	—	300
償却債権取立益	240	—
その他	193	228
営業外収益合計	613	1,098
営業外費用		
自己株式取得費用	31	—
その他	114	59
営業外費用合計	146	59
経常利益	10,452	72,514
特別利益		
固定資産売却益	452	—
債務保証損失引当金戻入額	1,500	1,500
特別利益合計	1,952	1,500
特別損失		
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	—	95
店舗閉鎖損失	7,546	1,309
特別損失合計	7,546	1,404
税引前四半期純利益	4,858	72,609
法人税、住民税及び事業税	10,033	17,890
法人税等合計	10,033	17,890
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△5,175	54,719

（3）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第2四半期累計期間 （自平成27年10月1日 至平成28年3月31日）	当第2四半期累計期間 （自平成28年10月1日 至平成29年3月31日）
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	4,858	72,609
減価償却費及びその他の償却費	17,310	17,919
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△1	—
受取利息及び受取配当金	△180	△112
為替差損益（△は益）	3	△5
固定資産売却損益（△は益）	△452	0
固定資産除却損	—	95
店舗閉鎖損失	7,546	1,309
債務保証損失引当金の増減額（△は減少）	△3,000	△3,000
売上債権の増減額（△は増加）	△21,708	△17,805
たな卸資産の増減額（△は増加）	△27,047	△19,893
仕入債務の増減額（△は減少）	82,708	63,283
未払金の増減額（△は減少）	11,060	4,309
未払消費税等の増減額（△は減少）	△7,746	19,221
その他	15,056	7,464
小計	78,407	145,396
利息及び配当金の受取額	180	112
法人税等の支払額	△10,646	△20,163
営業活動によるキャッシュ・フロー	67,941	125,345
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△8,624	△277
有形固定資産の売却による収入	822	—
敷金及び保証金の差入による支出	△3,000	△1,535
敷金及び保証金の回収による収入	4,963	10,058
リース債権の回収による収入	4,621	3,756
その他	815	△48
投資活動によるキャッシュ・フロー	△402	11,954
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△34,870	△14,007
自己株式の取得による支出	△5,767	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△40,637	△14,007
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	5
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	26,897	123,296
現金及び現金同等物の期首残高	470,782	328,838
現金及び現金同等物の四半期末残高	497,680	452,135

（4）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間（自 平成27年10月1日 至 平成28年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,855,387	216,155	2,071,543	—	2,071,543
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,855,387	216,155	2,071,543	—	2,071,543
セグメント利益	67,747	19,682	87,430	△77,445	9,985

（注）1. セグメント損益の調整額△77,445千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間（自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,805,928	371,403	2,177,332	—	2,177,332
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,805,928	371,403	2,177,332	—	2,177,332
セグメント利益	113,190	20,639	133,829	△62,353	71,475

（注）1. セグメント損益の調整額△62,353千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。